

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム桂苑
(ユニット名)	A・Bユニット
所在地 (県・市町村名)	大阪府泉佐野市羽倉崎1丁目1番4号
記入者名 (管理者)	堅木 亜起子
記入日	平成 20年 6月 30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1.人間の尊厳を守る2.自立した生活の援助3.プライバシーの尊重の3項目を独自理念とし地域の中で安心して生活出来る様に支援している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼にて管理者・職員一同、理念を唱和し、一日の始まりとしている。また、理念の実践に向けて個別介護計画にも組み入れ職員全員がサービスを提供する事で理念の実践を行なっている。	○	本人、ご家族様や地域住民の方の意見も尊重し、理念を踏まえた介護計画書に基づくサービスの提供に対し、評価を頂き常に軌道修正できるように柔軟な姿勢で理念の実践に取り組んでいく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は来訪者の誰もが見につきやすいホーム玄関先にも掲げており施設見学に来られた方には必ず3つの理念について説明をするようにしている。また、ご家族様にはその理念に基づいた個別援助計画にたいし十分ご理解を頂いている。		
,				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	悪天候を除き、可能な限り入居者とスタッフの1対1での散歩や買い物に出掛けている。その際、近隣の方にはご挨拶をするように努めており時には近隣の方から声掛けしていただく事もある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	認知症の程度や心身の状況により自治会への参加や老人会への参加は困難であるが地域の人々との交流を図る為、年間行事として夏祭りや餅つき大会等の開催により施設開放を行ない地域の人々を招いている。	○	年間行事の内容について地域の人々の意見も取り入れより開放感のある施設作りを目指していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は実施していない。	○	同一法人内での介護支援専門員や地域の方より協力を得、地域交流や高齢者支援に対する取り組みを行うよう検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価について事前に職員へ周知し、実施の意義を理解すると共に、評価については具体的な改善が出来るようあらかじめ内容に目を通し会議にて改善策を検討し改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で施設についての是非を指摘されたがホームが3階建ての2階部分にありまた、階段前に入り口がある。事故の危険性が高いためやむを得ないが出来るだけ外出支援を行うようにし開放的な生活をしていただけるように努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当事業所の管理職のスタッフが市役所で開催される介護保険課地域包括支援センターを交えての運営協議会の委員を行っているので会議の場で情報交換や制度変更の情報などの収集及びアドバイスなどを求めたりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	開所当初より成年後見制度を利用されている方が入居されており実際に学ぶ機会がある為、権利擁護に関する制度の必要な方への支援は理解できている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて高齢者虐待防止法について学ぶ機会を儲け、また、具体的に管理者が日々の援助において虐待となる事例を実践(実際には入居者役に職員がモデルとなったり口頭で指導)を用いて防止に努めている。	○	言葉による虐待については認識が薄れがちになるので職員同士が不適切な言動がないか常に意識をし、お互いに注意し合い防止に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は施設の理解を十分にさせていただき細やかな説明を行っている。現時点では開所当初から12人の方がそれぞれの理由にて契約解除をされており、十分な説明と退居後も有効な関係が保たれている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に入居者や家族とのコミュニケーションをはかり、意見や要望、不満などを発しやすい関係作りを目指している。また、それらの意見があれば随時、カンファレンスを行い、問題解決に取り組んでいる。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、ご家族様へ介護支援報告書を発行している。また、金銭管理については来苑時に個人ごとの金銭管理台帳を確認していただいている。病状についてはその都度報告を行なっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と職員は友好的な関係を築き意見や要望を得ながらこれらを日々運営に反映させている。また、運営推進会議の場や意見箱の設置、苦情担当者の設置をしている。重要事項説明書並びに契約書に公的苦情処理の連絡先の記載をしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的開催する会議や、適宜開催するカンファレンスにて各職員が発言する機会を設けている。その都度、話し合いを深め、職員間の意志の統一にて意見や提案を運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事内容や緊急時の対応の際には職員の確保に努め、勤務調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃から各ユニットの職員が他のユニットに行き来したり合同でレクリエーションを開催する機会を持つ事で利用者へのダメージを最小限に抑えるように努めている。	○ 離職者に関しては離職する事を入居者に告げず普段通りに接している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人が研修費を負担して行政主体の外部研修に参加するようにしている。職員は研修後は速やかに研修報告書の作成をし会議にて研修内容の報告を行なっている。</p>	<p>○</p> <p>勤務形態がシフト制であるため会議に参加できない職員に対しては資料に目を通すように指導しているが全員参加が出来るよう同じ内容の議題で数回に分けて会議を開催する事が望ましいと思う。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人管理職が地域のネットワークの為の交流会に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>困難な場面に遭遇した時や、戸惑いや不安が生じた時には運営者や管理者は個別に相談に応じ、問題の解決の為策に講じている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>連休の推奨や夏期休暇や冬期休暇の付与を行い心身ともにリフレッシュできるよう努めている。また、研修への参加を促し仕事に対する向上心を持てるよう配慮している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>インテーク面接により本人や家族からのニーズの把握に努め安心して入居していただけるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回面接から入居後も日々変化するニーズに対応できるよう、本人、家族とのコミュニケーションを十分に図り、個別援助計画に反映できるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時のニーズや課題を暫定によるアセスメントと聞き取りによる情報収集にて見極めその内容を受容し支援できるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始せず、体験入所の形をとっている。体験にて職員や他の入居者、場の雰囲気徐々に馴染めるように家族と相談の上、契約の運びとしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常の家事を中心に入居者の得意な分野や有する力が発揮できるよう入居者と共に助け合える関係を築いている。また、入居者だけでなく職員も家族の一員という認識の上で喜怒哀楽を共有できるよう業務を遂行している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の方との連絡を密にし、家族の方の意向を取り入れ同じ方向性で入居者を支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人や家族の話に傾聴し家族関係の理解に努めている。また、時に双方のパイプ役となっている。	○	双方の意見が合わない時や一方通行の時にはお互いの関係が上手く行くよう支援する必要がある。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人や馴染みの人の来苑を受け入れている。本人が希望すれば馴染みの場所へもお連れしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士が同じ目標を持てる協働作業やレクリエーションを取り入れ、時間の共有や達成感を実感してもらえるように努めている。また、一人の入居者が孤立して疎外感がないように配慮し、職員の配置を考慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了時にも相談や来苑していただいております、行事などの参加の声掛けや気軽に立ち寄っていただけるよう友好的関係作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや希望の把握に努め、可能な限り添えるように職員一同で検討しながら取り組んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や御家族様とのコミュニケーションを図りながら生活歴やなじみの暮らし方、生活環境などの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の身体状況、認知症の症状を理解し個別の介護計画に沿って自立支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人や御家族様との会話により思いを把握した上でケアカンファレンスにて職員同士で意見を出し合いより良い暮らしをしていただく為のプランを作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別の介護計画に沿って支援する中で変化・状況に応じて適宜、計画の見直しを行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録にて御家族様より情報、個人の性格、日常生活への気づきなどをキャッチしそれをカンファレンスを通して介護計画へ生かせるよう支援している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々のなじみの家具の配置を行い又、日常的な生活援助や食生活においては特別メニューなどを提供する事によりその人らしいより快適な生活が出来るよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる月に1度の歌体操、手芸他、随時ハーモニカ演奏、琴演奏など提供している。定期的に資格を持った職員による散髪も行なっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	主治医の指示の元、週3日リハビリテーションの提供と、医療保険の適用にて訪問歯科診療も受けている。又、他の事業所のケアマネジャーやサービス事業者の意見を求める機会を適宜設けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は行っていない。運営推進会議のメンバーとして、地域包括支援センターの職員との交流の中でアドバイスをいただくことがある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるよう、医療機関へ連絡を取り、本人、御家族様の希望にあわせた対応を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診を実施し、介護経過報告書を用いて日常生活、病状の報告を行っている		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が兼務にて看護師であり常に入居者の健康管理を行っている。また、かかりつけ病院の看護師との連携も取れており医療の活用を支援している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時には毎日、職員が病院へ出向き、本人の様子観察とコミュニケーションを通して得た内容を記録している。また、ご家族様立会いの下、病状の説明を受けたり退院後のケアに対する指示を受けている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期においては現在、該当する入居者がいない為、ご本人様、ご家族様の心情から話し合う機会が遠のいている。	○	早い段階でかかりつけ医にご本人や御家族様を交え重度化や終末期のあり方について話し合う機会を設けていく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者の方を全人的に受け止め御家族や医療関係者等と連携を図りながら入居者様が安心して生活できる環境を提供している。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在、該当者はいない。	○	今後、該当者があればご本人、ご家族様の意思決定ができるよう、他施設への紹介をし、ご本人様がストレスを受けないよう生活用品やなじみの品を提供し不穏に陥らないよう支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の尊厳を大切にしたいと常日頃から話し合っている。個人情報の書類は決められた場所で保管をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の希望を最優先するため、選択肢をもって本人の自己決定促している。	○ 時に希望に添えないこともあるが本人が納得行くまで説明している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の業務はあるが入居者一人ひとりの希望や状態・体調を考慮し、入居者のペースに合わせた個別ケアを実施する為担当スタッフを1名以上配置し援助している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に本人の望む理容・美容店に同行しお連れしている。特に好みの店が無い場合は資格の持つスタッフがボランティアで本人の好みに合わせてヘアースタイルしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のADLを考慮した上で職員と共に準備や食事、後片付けを行なっている。日々、全入居者の好みの献立になるよう努めているが献立によっては好まないものがありそういう時は、個別にメニューを変更し本人の好みに添った食事を提供している。また、時には外食も楽しんでいただけるよう支援している。	○ 誕生会や年間の大きな行事については入居者の好み聞き好物が必ず献立に盛り込まれているよう努めている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	午後3時におやつ時間を確保、出来るだけ入居者の好みを提供するよう努めている。また、希望があれば個別に喫茶店にお連れしている。	○ 現在はタバコやお酒の嗜好を持つ方はいないが今後、そういう方が入居された場合は検討する必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来る限りトイレ誘導している。また、夜間は歩行時転倒の危険性の高い入居者にはポータブルトイレの使用を促し、適宜、援助している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は週3回の入浴を行なっている。不公平が生じないように順番をずらしているが、入居者の希望や体調により順番を適宜変更したり中止している。血液循環の悪い人には入浴以外に足浴も実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間は一時間後との巡視を行なっている。入居者の体調不良などの場合は巡視の回数を適宜行っている。また、不眠がちな入居者に対しては短時間の昼寝も促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりのADLを考慮し家事や炊事など出来る事への参加を促しグループホーム全体が家族として捉えていただけるよう役割を持っていただいている。また、外出の好きな方へ買い物や奨励や喫茶店での憩いのひと時を味わっていただけるよう支援している。月に数回のレクリエーションにて気分転換を図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる入居者以外は職員が管理しており必要に応じて金銭の出納を行なっている。出納帳の記載とレシート、領収書を保管し誤りがない様、家族様が来苑の際、確認をしていただきサインを頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、入居者の健康チェック後、外出を促している。歩行困難な入居者へ車椅子を使用し外気浴を行なっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一回程度、近隣の海やショッピングに出掛け生活意欲の向上に努めている。また、ご家族の方にも声掛けをし、出来るだけ参加をいただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠方にいたり、多忙の為面会の頻度が少ない場合には手紙や電話をし家族関係が希薄にならないように支援している。	○	以前から独居であり家族がいない入居者に対して、友人やその他本人が親しみを感じている方へ手紙を書いたり出来るよう支援していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員は、来苑者に対し、常に歓迎の姿勢で迎え入れている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	些細な言動であっても身体拘束に該当するか否かをミーティングにて検討・判断し職員一同、身体拘束ゼロを目指している。	○	信頼関係が出来ている入居者に対して、人生の先輩としての敬意は払う事は出来ているが、話の内容に関して今一度、振り返り、自尊心を傷つけるような事が無いか検討していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム入り口が階段の昇降口にあたるため危険を伴なう。そのためやむを得ず施錠している。スタッフは出入り口に関しては特に見守りを強化し、自由・開放感を束縛しないよう、出来る限り開放を心がけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	予め、危険物と予測される物の除去に努めている。また、職員は常に入居者の所在を把握し、自室にいる場合は訪室を一定の時間ごとに行い声掛けをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	馴染みの家具や品物を居室内に置き、個々に応じた対応を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人管理職やホーム管理者が指導し、職員同士もお互いに声掛けや注意をしながら事故防止に取り組んでいる。また、事故防止の為の勉強会も不定期に行なっている。	○	定期的な事故防止委員会の設置が必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日勤帯において週に5日、看護師が健康管理を行っており、異常時の早期発見や事故発生時には必ずスタッフが現場を通しての指導を受けている。	○	定期的に急変時の対応についての勉強会が必要。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1度、消防署の指導の下、ほぼ全職員が出勤し訓練を受けている。	○	消防訓練を受けているが実際、災害が発生した場合、落ち着いた対応が出来るよう、施設内でも訓練しておく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族が来苑の際、その日の勤務職員が、身体や心理面での現状を看護師が報告している。また、予測されるリスクと結びつけ個別ケアに反映できるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変の発見時には看護師に速やかに報告し、必要であれば医療機関へ連絡をしている。週に1度の頻度で、(プライバシーに配慮し)医療機関との情報交換を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に処方箋や薬の辞書に目を通し、疑問点については看護師に質問し答えを得ている。症状の変化があれば速やかに看護師に報告し指示を仰いでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表を作成し日々、確認している。水分摂取と食物繊維の多い食材のメニューを考案し便秘にならないよう支援している。また、運動量の少ない方へは散歩や座ってできる運動などを促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食事後、口腔ケアを実施している。歯の異常発見時は往診による歯科受診を受けていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は一人ひとり表にし、管理している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルの活用とその季節に発生しうる食中毒や流行性病原菌について看護師より指導を受けている。また、職員が感染の媒体とならないよう、手洗いやプラスチック手袋の使用をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は賞味期限を厳守し、新鮮なうちに調理して提供している。また、調理器具などは可能なものは煮沸したり天干しにて雑菌の除去に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節の色とりどりの花やベンチを設置し親しみやすい雰囲気があるが建物前には遮断機付きの駐車場があるため親しみやすさが伝わりにくい。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム玄関先や廊下には季節感を感じられる花や創作物の飾りをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂は食事以外は好きな場所に座っていただいている。また、ロビーにはソファを館内の一部に畳みの間を設置し誰もが過ごしやすき憩いの場所となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族との話し合いの下、本人のなじみの家具や用品を自室に置いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室にはエアコンディショナーや換気扇があり入居者の要望に応じて快適な空調に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、滑りにくい床材の選択、段差の解消などは建築時に行なっている。歩行時に不安を感じないように見守りを徹底している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は入居者一人ひとりの状態の把握に努め、言葉選びや声のトーンにも配慮し心理面の支援を行うよう努めている。浴室、トイレ、洗面所にはその場所を示す看板を職員の手作りにより設置している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物裏側に菜園場所を設け職員と共に季節の食材を育て、収穫している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)